◆　目黒区　◆

中小企業の景況

平成２６年度第４･四半期
（平成２７年１～３月）

目黒区　産業経済部　産業経済・消費生活課

目　　次

１．都内中小企業の景況　1
２．目黒区内中小企業の景況（平成 27 年 1～3 月期）　2
　（１）今期の特徴点　2
　（２）今期の景況と来期の見通し　5
　　製造業　5
　　卸売業　9
　　小売業　12
　　サービス業　15
　　建設業　18
　（３）調査員のコメント　21
３．日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（平成 27 年 3 月）　24
４．特別調査「まち・ひと・しごと創生」と中小企業について　27
５．中小企業景況調査　比較表・転記表　30

調 査 の 概 要

１．調査時期　　平成 27 年 1 月～3 月期（四半期毎実施）

２．調査方法　　面接聴取調査

３．調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製造業	100	99
卸売業	29	29
小売業	52	52
サービス業	60	59
建設業	43	42
合計	284	281

調査実施機関　一般社団法人東京都信用金庫協会

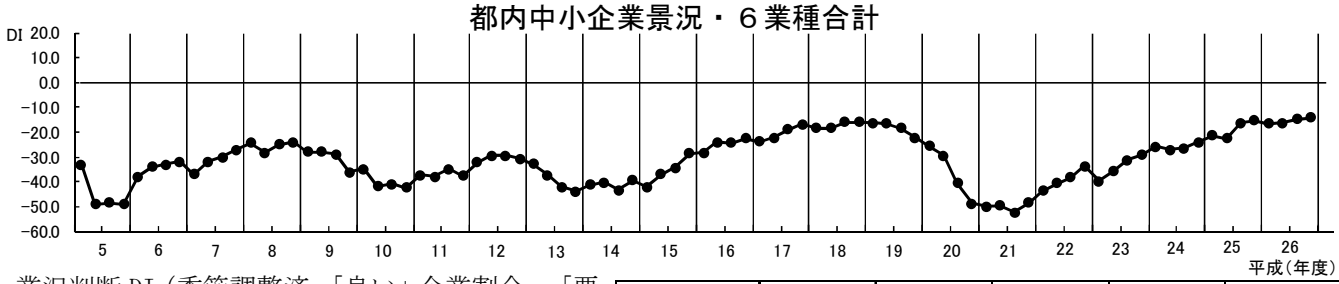
分析実施機関　株式会社帝国データバンク

１．都内中小企業の景況（平成 27 年 1～3 月期）

（一般社団法人　東京都信用金庫協会調べ）

建設業の増勢が一服　～６業種合計では前期並で推移～

都内中小企業景況・６業種合計



業況判断 DI（季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合）は－14.1（前期は－14.8）と前期に比べ 0.7 ポイント改善した。業種別にみると、卸売業・サービス業で若干悪化幅が縮小した。

来期は建設業で好調感が強まり、製造業・卸売業・小売業で厳しさが和らぐと予想している。

	前　期	今　期	増　減	来期予想	今期との増減
製　造　業	−13.9	−13.7	0.2	−10.0	3.7
卸　売　業	−14.4	−12.8	1.6	−8.9	3.9
小　売　業	−30.4	−29.0	1.4	−27.1	1.9
サービス業	−16.2	−14.4	1.8	−13.8	0.6
建　設　業	9.5	6.3	−3.2	9.1	2.8
不動産業	−3.1	−2.1	1.0	−3.0	−0.9
総　合	−14.8	−14.1	0.7	−11.8	2.3

＜製造業＞

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額・受注残・収益は前期同様の減少幅・減益幅で推移した。価格面では、販売価格はほぼ横ばいで推移し、原材料価格は多少落ち着きをみせた。

業種別にみると、「食料品」は大きく改善し、「精密機械」「建設用金属」「一般機械」「金属製品」「紙・紙加工品」「皮革関連」はやや悪化幅が縮小した。一方、「プラスチック」「プレス・メッキ」「印刷関連」は前期同様の厳しさが続き、「ゴム製品」「繊維・衣服」は幾分深刻さを増し、「木材・家具」はかなり低調感を強めた。また「輸送用機械」は前期並の良好感が続き、「化学工業」は大きく好調感が後退した。

来期の業況は、水面下ながら改善すると予想している。売上額・受注残・収益は減少幅・減益幅が縮小するものとみている。

＜卸売業＞

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額は前期同様の減少幅で推移し、収益はわずかに減益幅が縮小した。価格面では、販売価格はやや上昇が弱まり、仕入価格は大きく上昇幅が縮小した。

業種別では、「建築材料」「化学製品」は水面下ながらわずかに上向いた。一方、「機械器具」は若干水面下に落ち込み、「食料品・飲食料品」はやや低調感を強めた。

来期の業況は、水面下ながら改善するものとみている。売上額・収益はともに減少幅・減益幅が縮小すると予想している。

＜小売業＞

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額はわずかに持ち直し、収益は前期並の減少が続いた。価格面では、販売価格・仕入価格ともに多少上昇幅が縮小した。

業種別では、「飲食店」「書籍・文房具」「カメラ、時計・眼鏡」は水面下ながら大きく持ち直し、「スポーツ用品・玩具」「繊維・衣服・身の回り品」「家具・建具・じゅう器」は若干悪化幅が縮小した。一方、「医薬品・化粧品」「家電・家庭用機械」はわずかに厳しさを増し、「ガソリンスタンド・燃料」は大幅に業況感が落ち込んだ。

来期の業況は、悪化幅が縮小するものと予想している。売上額・収益はともに減少が一服するものとみている。

＜サービス業＞

業況はわずかに持ち直した。売上額・収益はやや減少幅・減益幅が縮小した。価格面では、料金価格はほぼ横ばいで、材料価格は大きく上昇幅が縮小した。

業種別にみると、「洗濯・理容・美容」は多少持ち直し、「情報サービス・調査・広告」はやや悪化に転じ、「自動車整備・駐車場」は幾分厳しさを増した。

来期の業況は今期同様の厳しさが続くとみている。売上額・収益はともに今期並の減少幅・減益幅で推移するとみている。

＜建設業＞

業況はやや増勢が一服した。売上額は前期同様の増加が続き、受注残・施工高は幾分伸び悩み、収益は若干弱含んだ。価格面では、請負価格はやや上昇が弱まり、材料価格はかなり上昇幅が縮小した。

業種別にみると、「職別工事」「総合工事」「設備工事」はともに多少増勢が後退した。

来期の業況は、良好感が強まると予想している。売上額・施工高は今期同様の増加が続き、受注残・収益は強含むとみている。

＜不動産業＞

業況は前期同様変化なく推移した。売上額・収益はともに前期同様の水準であった。価格面では、販売価格はほぼ横ばいで推移し、仕入価格はやや上昇が弱まった。

業種別にみると、「建売・土地売買」は前期同様の水準が続き、「不動産代理・仲介」は前期並の悪化幅で推移している。

来期の業況は、今期同様変化がないものとみている。売上額は好転し、収益は回復の兆しがみえると予想している。

［注］

○Ｄ．Ｉ（Diffusion　Index の略）
　Ｄ．Ｉ（ディーアイ）は、増加（又は「上昇」「楽」など）したと答えた企業割合から、減少（又は「下降」「苦しい」など）したと答えた企業割合を差引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらかの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○（季調済）Ｄ．Ｉ
　季調済とは、各期ごとに季節的な変動を繰り返すＤ．Ｉを過去５年間まで遡って季節的な変動を除去して加工したＤ．Ｉ値です。修正値ともいいます。

○傾向値
　傾向値とは、季節変動の大きな業種（例えば小売業）ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方向をみる方法です。